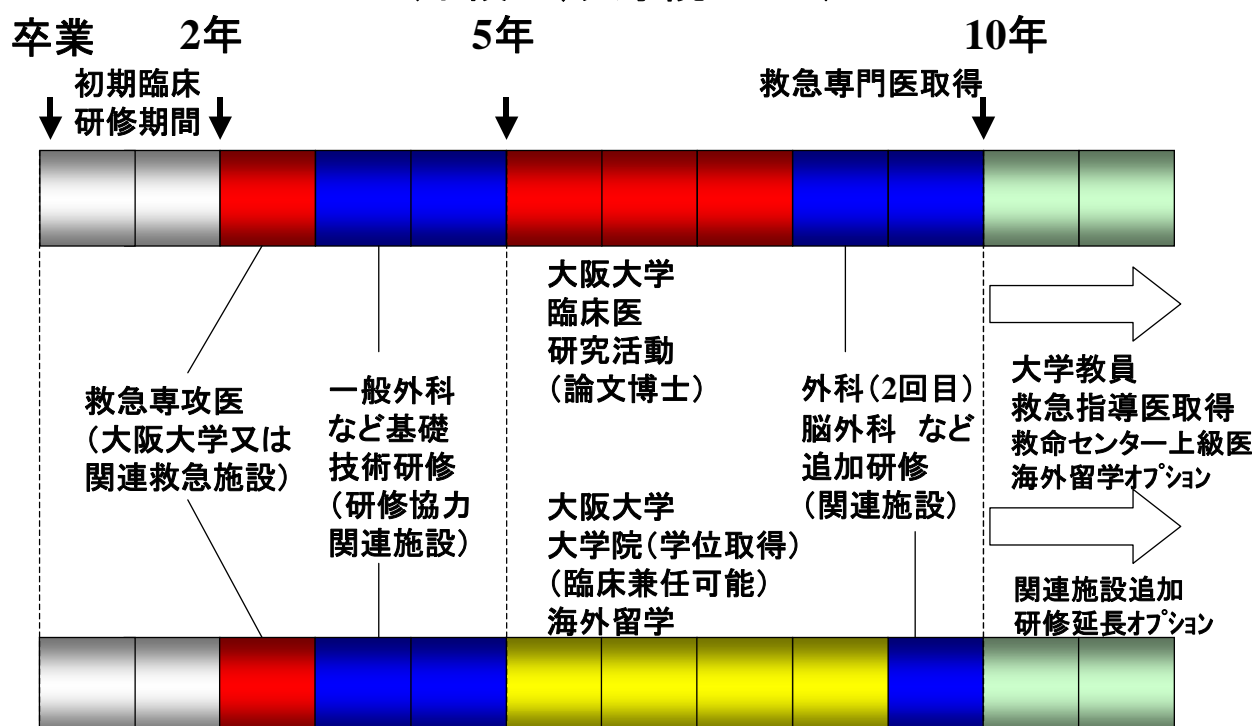


① 専攻医（卒後3年目～）対象プログラム

救命救急診療技術と、外科系救急に必須の一般外科手術技術を計画的に習得し、さらに重症救急症例の病態解析ができる質の高い外科系救急専門医を育成することが目的です。初期臨床研修後、最初の1年間は、大阪大学または関連施設で、救命救急臨床の経験を積み、次の2年間は一般外科臨床・手術技術を学外研修協力病院で経験していただきます。卒後6年間から3年間は大阪大学高度救命救急センターの三次救急専従医として勤務して臨床経験を積むとともに臨床研究活動を行い、様々な重症救急病態に対して病態分析的に対応可能な能力を養います。この間に論文博士による学位取得が可能です。大学院コースでは4年間のうち臨床研究・基礎研究にそれぞれ2年間従事し、学位を取得します。在学中の海外留学も可能です。また、何れのコースでも大阪大学在任中に救急専門医を取得していただきます。その後2年間（大学院コースでは1年間・延長オプション可）は腹部手術や開頭術、IVRといったサブスペシャリティ技術を磨くため研修協力病院に循環し、大学教員あるいは第一線の救命救急センター上級医として活躍していただきます。海外留学のオプションも設定可能です。

外科系救命救急医育成プログラム (下段は、大学院コース)

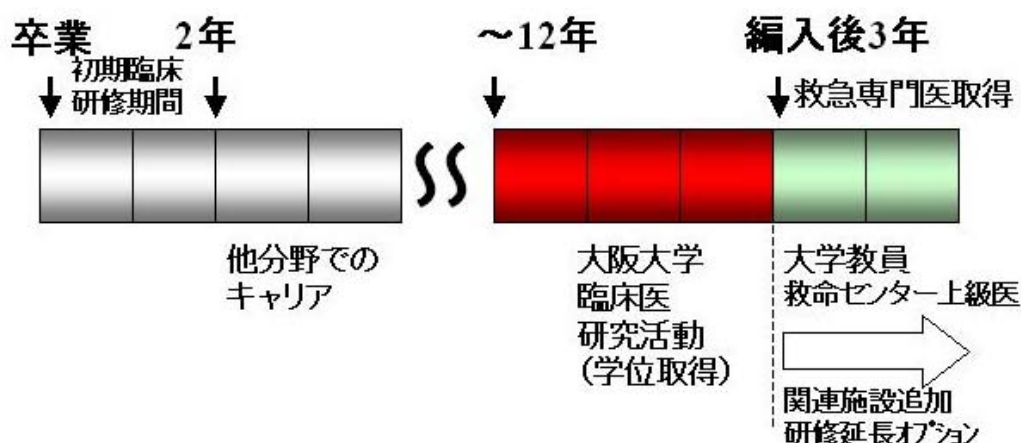


② 他分野からの編入（～卒後 12 年程度まで）プログラム

卒後、他の分野でキャリアをスタートされた方でも、急性期医療に強い関心を抱かれる方は多いと思います。救命救急は、急性期医療の中でも特に重症・緊急症例の入り口となるわけですが、決して私ども外科系救急医のみで成り立っている世界ではありません。実際に、内科、腫瘍外科、整形外科、脳外科、産婦人科、小児科、麻酔科など様々な分野でキャリアスタートされた方々が、私どもの施設で救命救急を経験し、その後、私ども救急医学教室の大学教員として活躍されたり、外部の第一線の急性期医療分野で活躍されたりしています。

この編入プログラムは、卒後 12 年以内程度の方々を対象と考えています。編入後の身分は、シニア非常勤医員です（医療兼業が可能です）。原則として3年間、大阪大学高度救命救急センターの三次救急専従医として勤務して臨床経験を積むとともに臨床研究活動を行い、様々な重症救急病態に対して病態分析的に対応可能な能力を養います。この間に論文博士による学位取得が可能ですし、3年間の臨床経験後には、救急専門医を取得していただきます。その後、希望によりサブスペシャリティ技術研修も可能です。プログラム修了後は、大学教員あるいは第一線の救命救急センター上級医として活躍していただきます。

他分野からの編入プログラム

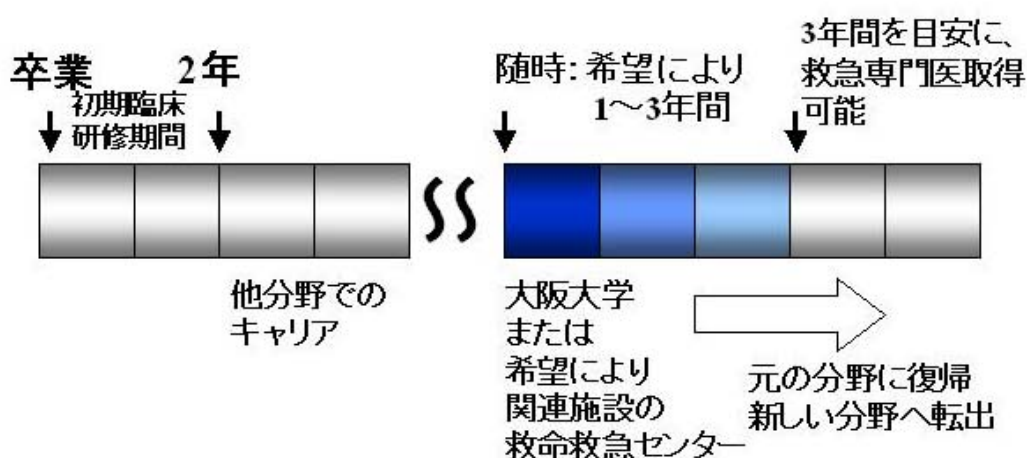


③ 短期研修プログラム

多様なキャリアのうちの一部として、救命救急分野の経験を積みたいが、軸となるキャリアは他にある、あるいは救命救急を経験した後、他のキャリアに転出したいと考えられる方もおられると思います。私どもの施設では、このような方々を対象

として、**短期間の研修**も受け入れています。1年未満の短期研修も受け入れています。専門医の取得を希望される場合には3年程度を目安として下さい。シニア非常勤医員（医療兼業が可能です）の身分での研修となります。また、大阪大学以外の任地のご希望がある場合には、**白心会**（別項に説明がございます）を通じて、関連医療機関・救命センターを研修先としてご紹介することも可能です。いずれの場合にも、まず大阪大学の高度救命救急センターにお問い合わせ下さい。

短期研修プログラム



④ 付記：救急専門医について

専門医の取得等

学会等名	日本救急医学会
資格名	救急専門医
資格要件	5年以上の臨床経験を有し、継続して3年以上日本救急医学会会員であり、専門医指定施設で救急専従医として3年以上の経験を有し、かつ日本救急医学会専門医制度の定める必須の手技・必須の症例担当（指定対象を50例以上）を記録・申請した上で、必須の知識について筆記試験を受験し、合格すること。
学会の連携等の概要	
日本救急医学会専門医認定制度により、資格審査および筆記試験により、厳正な審査が行われ、合格者が専門医として認定される。	